

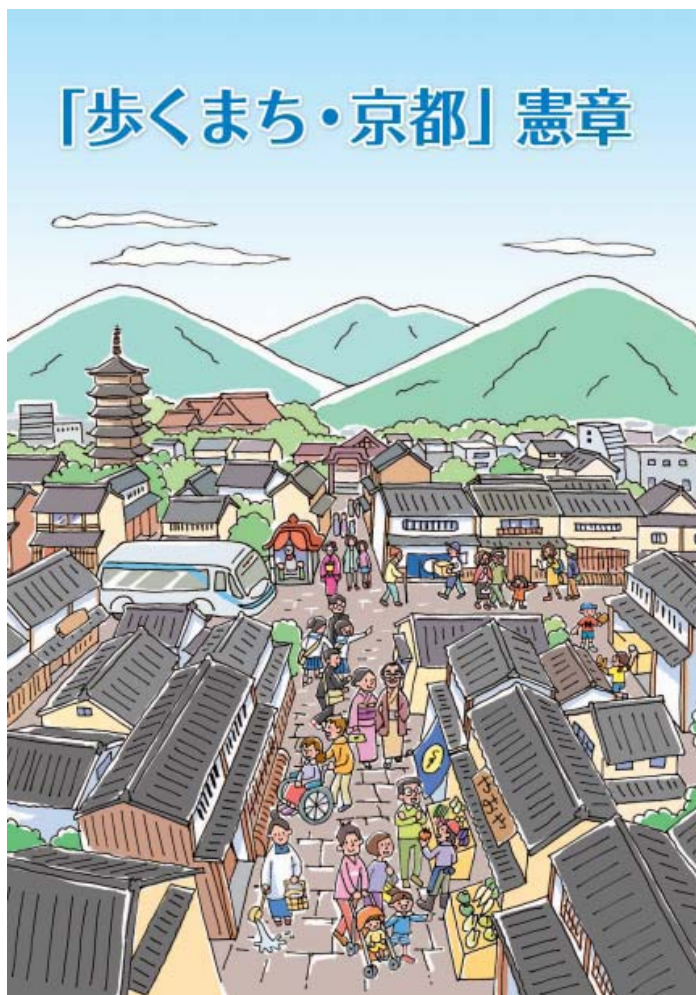


「歩くまち京都」実現への ITSの貢献

京都大学大学院工学研究科教授

谷 口 栄 一

歩くまち・京都憲章



わたしたちの京都では、市民一人一人は、

1 健康で、人と環境にやさしい、
歩いて楽しい暮らしを大切にします。

そして、市民と行政が一体となって、

1 だれもが歩いて出かけたくなる
道路空間と公共交通を整え、
賑わいあるまちを創ります。

1 京都を訪れるすべての人が、
歩く魅力を満喫できるようにします。

(平成22年1月23日制定)

21世紀における都市の重点的課題

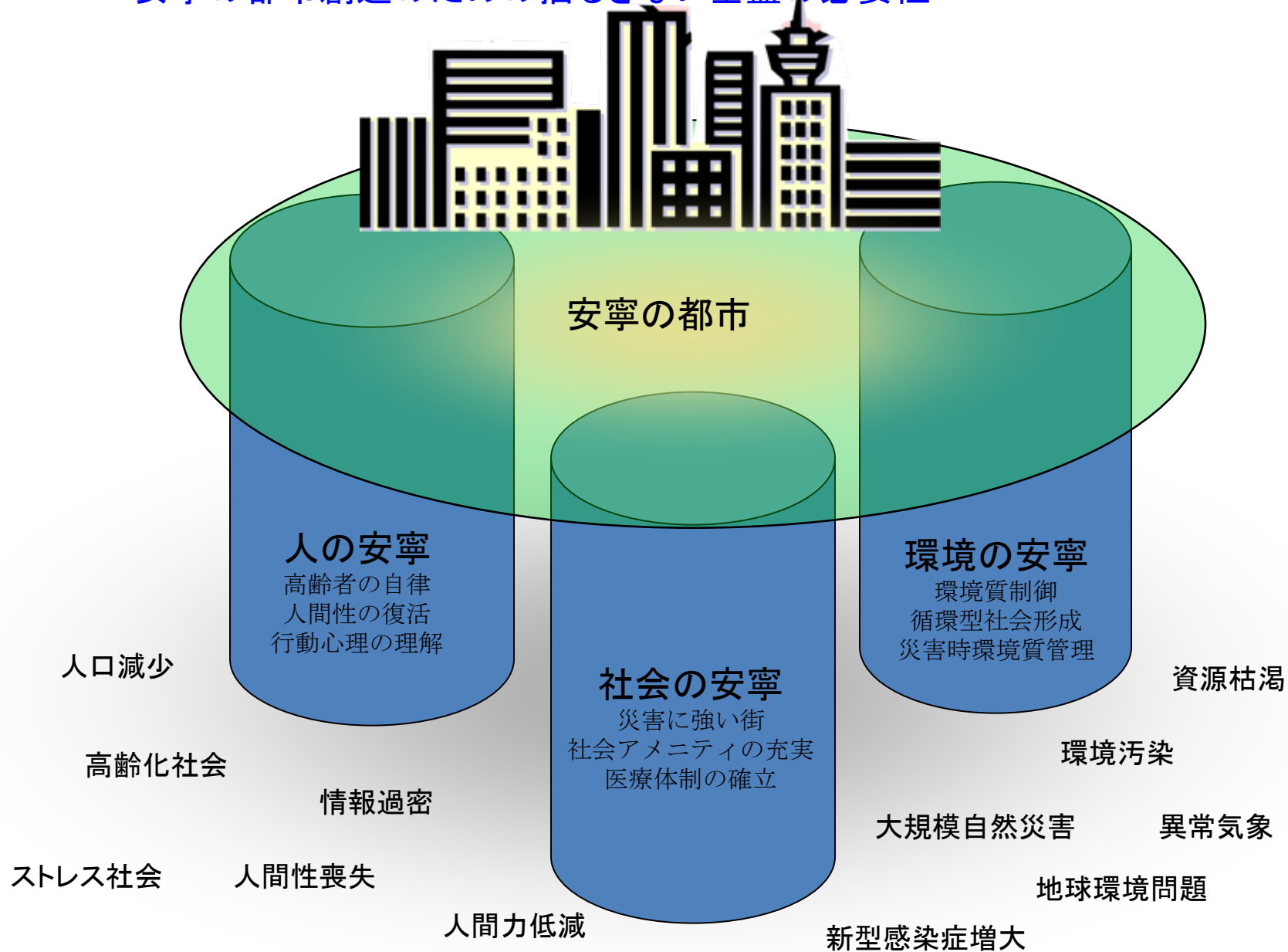
- ・人口減少・少子高齢化の急速な進展に伴う社会変化への対応
- ・自然災害や新型感染症に伴う健康不安への安全対処
- ・資源開発、人口問題、環境問題などの地球的課題の克服
- ・社会基盤施設と都市アメニティの形成、交通問題への対処
- ・情報化社会の行動心理の解明、ストレスへの対処
- ・地球環境問題に対する環境制御、循環型社会の形成

『人間力』の低下、地域の社会、環境の変動に伴う
重層的、複合的な重点課題の克服



都市の安寧(人・社会・環境)を創造するための
分野融合型学術領域の創生と人材育成が必要

安寧の都市創造のための揺るぎない基盤の必要性



■都市交通の目指す目標

●流動性 (Mobility)

切れ目のないインターモーダル輸送

●持続可能性 (Sustainability)

環境

●居住性 (Liveability)

安心安全

●回復可能性 (Resilience)

災害後の回復

■都市交通の価値基準

- 渋滞
- 環境——騒音、振動、大気汚染、地球環境
(低炭素)
- 交通安全
- セキュリティ
- 競争力
- 健康

■都市交通システムのビジョン

- 効率的かつ環境にやさしく、安全でにぎわいをもたらす都市交通システムの構築

低炭素都市交通政策

- 豊かな歩行環境の創出
道路空間リアロケーション、ペDESTリアナイゼーション
- 新しい交通モードの導入
LRT (Light Rail Transit)、BRT (Bus Rapid Transit)
レンタサイクルシステム
- シティロジスティクス施策の導入
共同配送、積載率規制、



魅力的で活力のある都市の形成



道路空間
リアロケーション
ポートランド(USA)



ペDESTリア
ナイゼーション
上海(中国)



LRT
ブレーメン(ドイツ)

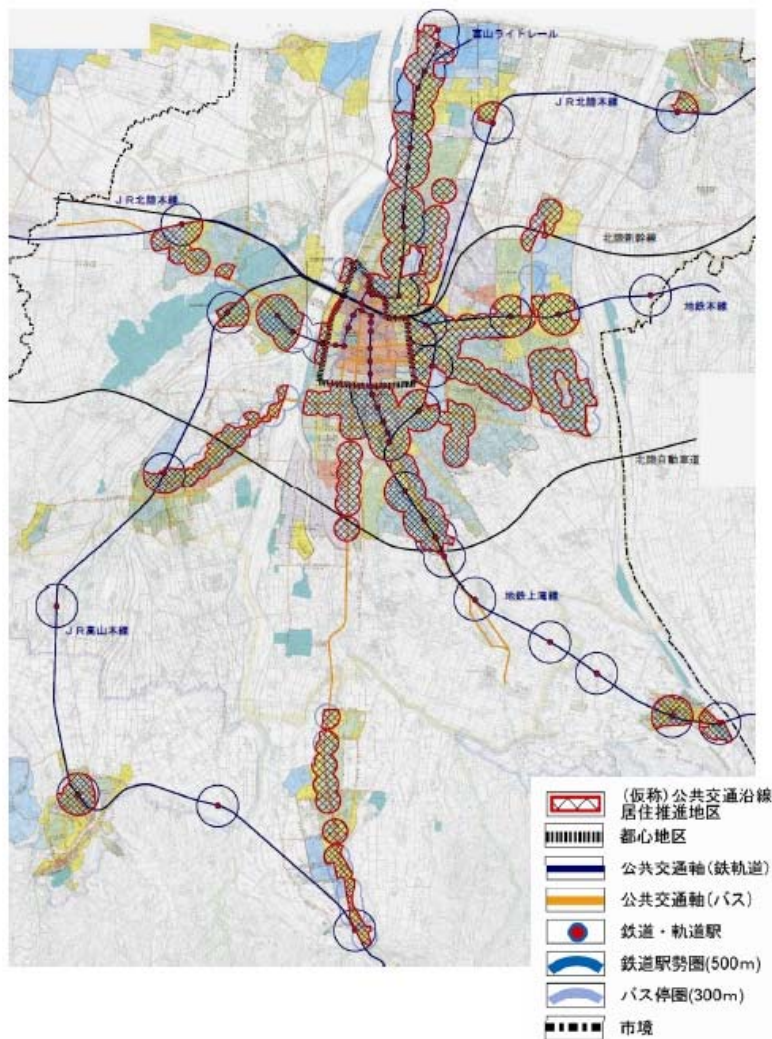


レンタサイクル
システム
リヨン(フランス)



共同配送
福岡(日本)

■ 公共交通による低炭素都市の構築 (富山市)



■ 目標を達成するためのプロセス

● 都市ガバナンス—公民連携

- 知識、データの共有
- 事前アセスメント
- アプレイザル
- 評価と社会の受容性
- マネジメント

● コミュニケーション

京都大学における社会人教育



安寧の都市ユニット

- 工学研究科と医学研究科の融合ユニット
- <http://www.ulc.kyoto-u.ac.jp/>



低炭素都市圏政策ユニット

- 工学研究科と経営管理大学院の融合ユニット
- <http://www.upl.kyoto-u.ac.jp/>

歩くことの効果（厚生労働省試算、平成22年1月）

- 日本人の1日平均歩数
 - 男性 7,011歩
 - 女性 5,945歩
- すべての大人が3,000歩増やすと、糖尿病、脳卒中などにかかる医療費を5.5%（2,695億円）削減できる

アクティブ・トランスポート (Active transport)

- レジャーのためではなく、日常の通勤、通学、業務などで行う交通行動において健康を増進するような交通

ITSの役割

- 歩くときの情報提供
 - 経路案内
 - 目的地の情報
 - 観光、イベント情報
- 歩くことを推奨
 - 歩くときの歩数、消費カロリーなどの計測
- 歩くことの見守り
- 歩くときの緊急連絡
 - 病気、事故

本企画セッションの内容

- 水田雅博(京都市交通政策監)
 - 京都市の交通まちづくり—歩くまち・京都の実現に向けて
- 野本慎一(京都大学大学院医学研究科教授)
 - 歩くことと健康
- 原良憲(京都大学経営管理大学院教授)
 - 京都の観光サービスとICT
- 西田純二((株)社会システム総合研究所)
 - 公共交通・まち歩きとICT

本企画セッションにおける論点

- 歩くまちはなぜ必要か
- 歩くまちを実現するための課題
- 歩くまちを実現するための方策
- ITSの役割
- 行政と住民によるガバナンス
- 今後の方向性